

地質構造・水資源専門部会の状況

(水資源課)

1 地質構造・水資源専門部会に関連する主な経緯（有識者会議中間報告後）

年月日	内 容
R 4. 4. 26	地質構造・水資源部会専門部会⑦（J R 東海との対話再開）
R 4. 7. 20	地質構造・水資源部会専門部会⑧
R 4. 8. 25	「静岡県地質構造・水資源部会専門部会の意見等について」を J R 東海に送付（64 項目）
R 4. 10. 13	「リニア中央新幹線南アルプストンネル工事に係る協議について」を J R 東海に発出【参考資料 1】
R 4. 10. 31	地質構造・水資源部会専門部会⑨
R 4. 11. 9	「高速長尺先進ボーリング及びトンネル掘削に伴う大井川の水資源への影響について（要請）」を J R 東海に発出【参考資料 2】

2 第 7 回地質構造・水資源専門部会 【4 月 26 日開催】

(1) 要旨

令和 3 年 12 月に国の有識者会議において「大井川水資源問題に関する中間報告」が取りまとめられたことを受け、「地質構造・水資源部会専門部会」における J R 東海との対話を再開した。

専門部会では、J R 東海から「県外流出量と同量を大井川に戻す方策」として、2 つの案が示された。

(2) 議題

- ・大井川水資源利用への影響の回避・低減に向けた取組み
- ・トンネル掘削に伴う水資源利用へのリスクと対応
- ・モニタリングの計画と管理体制
- ・地質調査資料について
- ・県外流出量を大井川に戻す方策等について

(3) 「県外流出量と同量を大井川に戻す方策」の概要

J R 東海は、国の有識者会議で「県外流出量を大井川に戻す方策については、今後、静岡県や流域市町等の水資源に対する不安や懸念を真摯に受け止めた上で、関係者の納得が得られるように具体的方策を協議すべきである。」とされたことを踏まえ、従来、有識者会議で説明していた案の改良案（A 案）に加え、新たな方策（B 案）を提案した。

< A 案 >

先進坑貫通までの約 10 ヶ月間に山梨県側に流出するトンネル湧水と同量を、先進坑貫通後に、山梨県内で発生するトンネル湧水をトンネル内で集め、約 1 年 1 ヶ月～1 年 9 ヶ月の期間（300 万 m³/10 ヶ月～500 万 m³/10 ヶ月の場合）をかけて大井川に戻す方策

<B案>

工事期間中に静岡県から山梨県へ流出するトンネル湧水（県外流出量）を計測しつつ、同時期に、東京電力リニューアブルパワー株式会社が、県外流出量と同じ量を大井川（田代ダム）から取水せず（水利権を行使しない取水抑制）、大井川の流量減少を相殺する方策

3 第8回地質構造・水資源専門部会 【7月20日開催】

(1) 要旨

前回、J R 東海が提案した、県外流出量と同量を大井川に戻す方策のうち、田代ダムの取水抑制案についてのJ R 東海の説明は、河川流量等の基礎データが不十分であり、また、河川法上の整理について回答がないことから、具体的な議論に至らなかった。

さらに、7月1日に施行された「静岡県盛土等の規制に関する条例」により、自然由来の重金属等を含む発生土を盛土するJ R 東海の現計画を見直す必要性が指摘された。

(2) 議題

- ・発生土置き場について
- ・水質・水温のリスク管理及びモニタリングについて
- ・県外流出量と同量を大井川に戻す方策等について
- ・その他

4 第9回地質構造・水資源専門部会 【10月31日開催】

(1) 要旨

山梨工区及び長野工区は、トンネル掘削が進められ、とりわけ山梨工区は、静岡山梨の県境付近まで工事が進んでいる。この工事がそのまま進めば、トンネル掘削により発生する湧水は、水圧差（動水勾配）の関係上、近傍の地下水だけでなく、距離的に離れた場所の高圧の地下水を引っ張ることになる。また、令和元年8月20日専門部会意見交換会において、J R 東海委託業者から、「高速長尺先進ボーリングをすれば、水を抜くことができるという利点がある」旨の説明を受けており、大井川の水資源への影響が懸念される。

このため、「リニア中央新幹線南アルプストンネル工事に係る協議の必要性について」県から説明し、「南アルプストンネル山梨工区・長野工区の進捗状況等」について、J R 東海から説明を受けた。

(2) 議題

- ・リニア中央新幹線南アルプストンネル工事に係る協議の必要性について
- ※【資料2-2】のとおり
- ・南アルプストンネル山梨工区・長野工区の進捗状況等
 - ・その他

(3) 南アルプストンネル山梨工区・長野工区の進捗状況等【JR東海の主な説明】

- ・山梨工区では、広河原斜坑掘削を完了し、広河原斜坑の終点から名古屋方に向けて、先進坑の掘削を進めており、現時点では山梨・静岡県境付近から約920mの地点に達している。
- ・山梨工区の現時点の湧水量としては、広河原斜坑・先進坑4.3kmの区間合計で約0.6m³/分(0.01m³/秒)となっている。
- ・長野工区では、現時点での切羽位置は静岡・長野県境付近から約3.9kmの地点となっている。
- ・今後の掘削の考え方として、山梨工区では、まず、高速長尺先進ボーリングによる調査を実施済みの約100mの区間の先進坑を掘削する。
- ・次に、高速長尺先進ボーリングによる調査で地質及び湧水の概略的な性状を県境を越えて確認した後、その結果を踏まえてトンネル掘削時の地山挙動や湧水状況を想定しながら、県境までの先進坑の掘削を進める。
- ・なお、長野工区についても同様の考え方に基づき、今後県境付近の掘削の計画を具体化していく。

(4) 主な意見等

- ・トンネルに地下水が引っ張られ、山梨県側に流出することが起こることについての認識を難波県理事がJR東海に対し確認したところ、JR東海からは「あると思うが、程度はよく見る必要がある。問題としては認識している。」と回答があった。
- ・部会長が会議を閉じようとしたところ、田代ダム取水抑制案についての法令上の問題について、次のとおりJR東海から口頭で報告があった。「国土交通省に改めて確認した。その結果、政府見解として、『取水を抑制することは譲渡に当たらず、法令上問題ない。』という回答があった。また、取水抑制案については、東京電力から取水量のデータをいただいて、別途、専門部会で詳細に説明する。」